



# 甘木鉄道活性化プロジェクト

福岡大学 大学院工学研究科

立花 健太郎, 川尻 渉太, 中村 みなみ, 福田 将之, 久留間 嵩之

## プロジェクトのきっかけ

顧客：福岡県 企画・地域振興部 交通政策課様

甘木鉄道の利用客数が伸び悩んでおり、ICTの力を使って利用者を増やしたい



具体性のない漠然とした悩み

打ち合わせを進め、調べてみると...

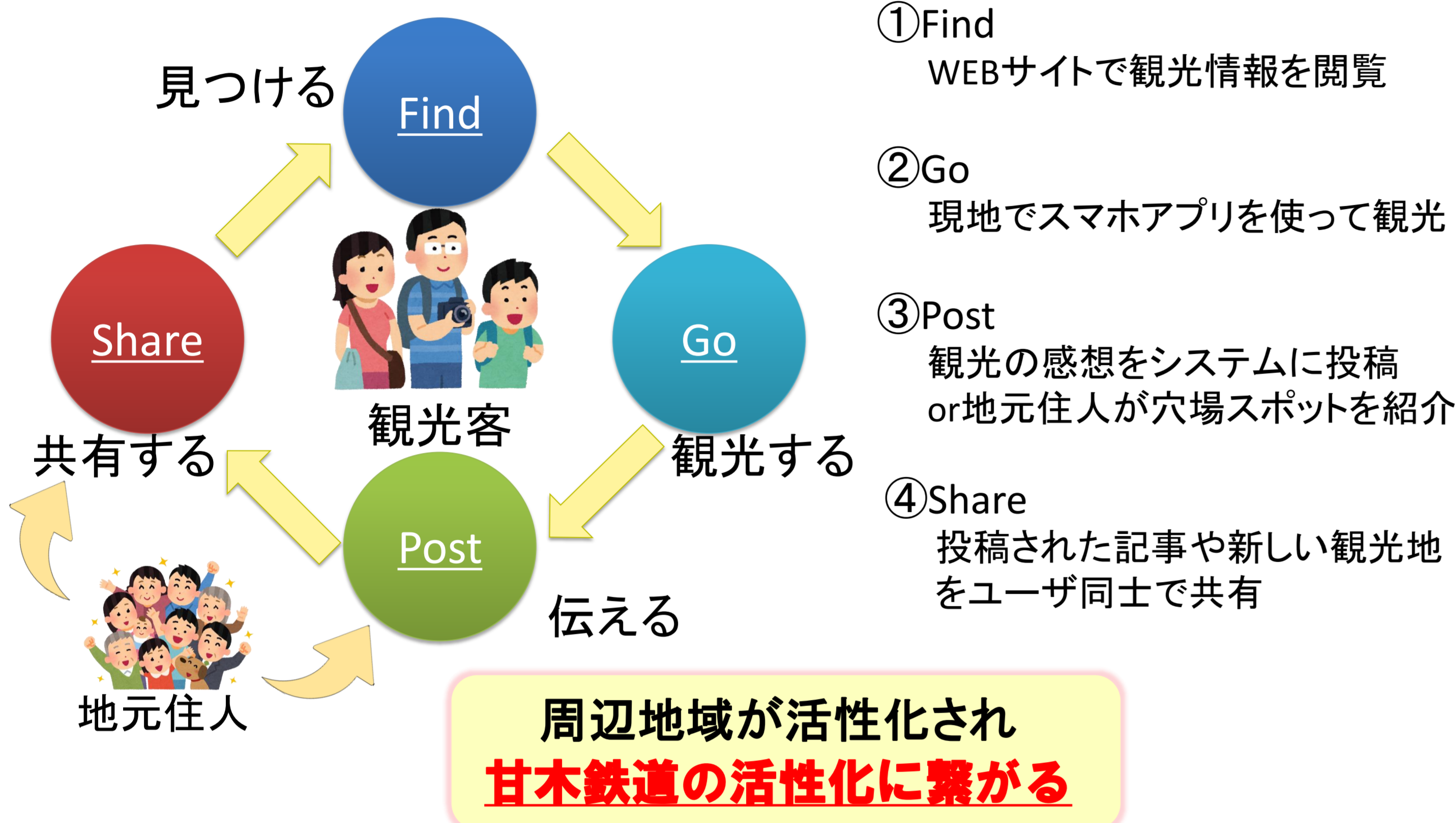
- ・ 周辺に観光地が多く存在している
- ・ 紙媒体で観光地を巡る観光ルートの提案を行っている
- ・ 鉄道利用者は通勤客が多いがシーズンになると観光客も増える

地域としての宣伝材料は多々存在している

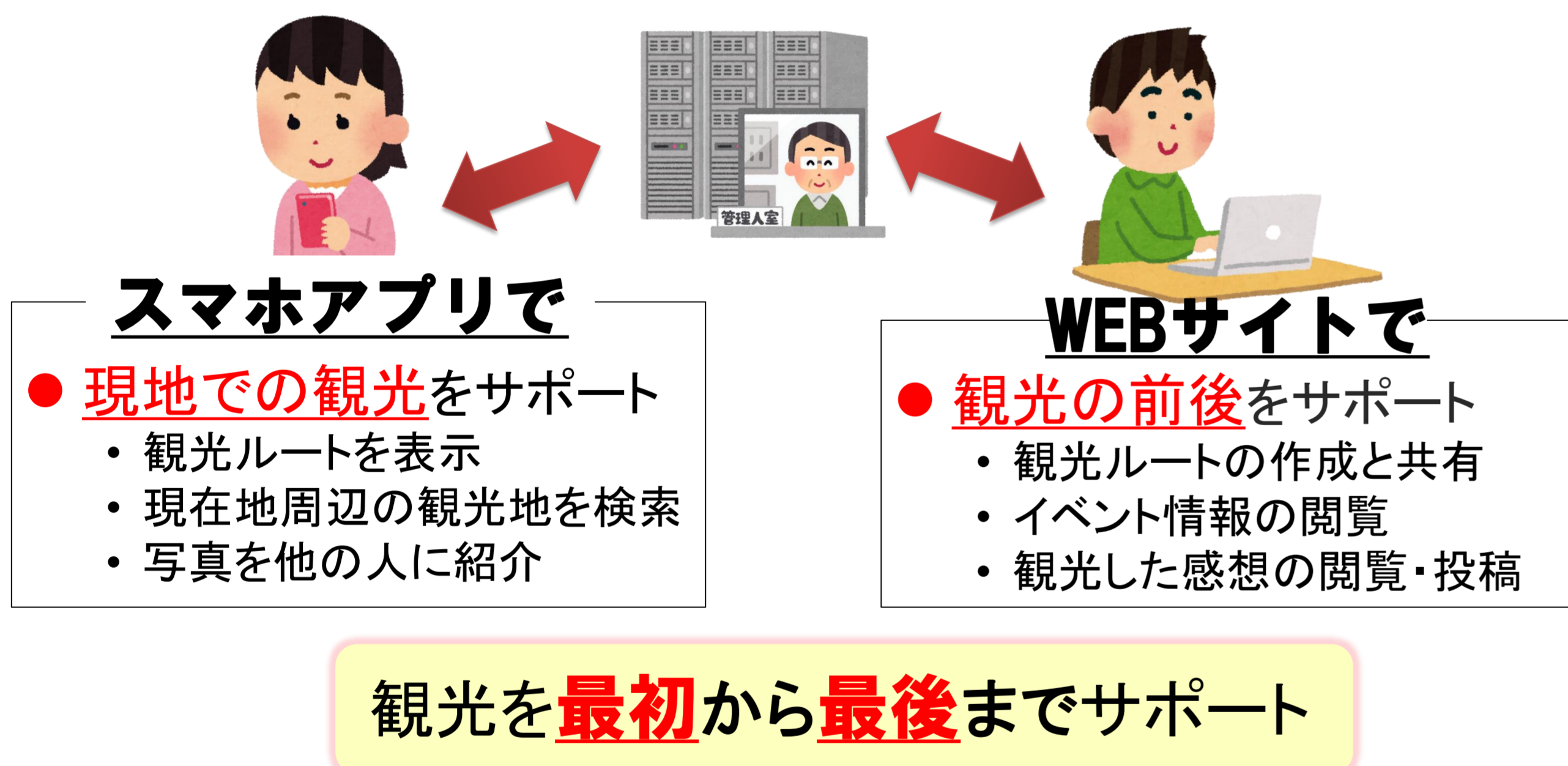
甘木鉄道を利用しながら観光を行う  
観光支援システムの提案

## システム概要

### システムの狙い



### 甘木鉄道を中心とした観光支援システム



## プロジェクト

### 概要

システムの目的	福岡市内の観光客をターゲットとした観光客誘致。また観光客の来訪に伴う甘木鉄道の利用人数の増加
ステークホルダー	・顧客 ・甘木鉄道(株) ・鉄道周辺の住民 ・観光客 ・甘木鉄道を育てる会
開発環境	Web: PlayFramework スマホアプリ: Monaca
担当	Web(バックエンド2名、フロントエンド1名) スマホアプリ2名
システムの規模	Webバック: 6.8kLOC Webフロント: 7kLOC スマホアプリ: 6.5kLOC 計: 約20kLOC
ミーティング	開催回数50回 延約100時間

### ガントチャート

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2016年1月	2月	3月	4月
要件定義	■		■							
技術習得				■	■					
設計				■	■					
製造						■	■	■		
テスト(学内)							■	■		
テスト(現地)										■
納品										■

■ 予定スケジュール  
■ 実際の進行状況

## プロジェクトを通じて

### 全体を通じて学んだこと

- ・ 各自で積極性、主体性をもつこと
  - やるべきことを探せる主体性
  - 積極的に意見を出す
- ・ ミーティングを円滑に進める工夫
  - 話し合う議題を事前に決め、決まったことをまとめる
  - 正しく分かりやすく伝えるための工夫
  - 前回の議事録を見直してミーティング
- ・ チームでの情報共有
  - 自発的に報告ができる環境づくり
  - 同じ場所で作業をすること
- ・ 各工程内での細かいスケジュールリング
  - タスクを洗い出し、最適な大きさに分割すること
- ・ モチベーション管理

### 要件定義について

- ・ 利用シーンを想定したサービスづくり
- ・ 専門外の人との話し合いの難しさ
- ・ 提案と検討のサイクル
- ・ 必要な機能を選別すること

### 技術習得について

- ・ 新しい技術への挑戦
  - 習得→評価→開発
- ・ 技術不足の克服
  - 勉強会・コードレビュー

### テストについて

- ・ 様々な環境でテストの実施
  - OS・ブラウザのバージョン・テスト環境・人
- ・ テスト項目の洗い出しの遅れ

### 設計について

- ・ 設計に対する認識の甘さによる失敗を体感
- ・ システムの規模を見積もることが重要

### 製造について

- ・ 進捗状況の見える化の重要性
  - 進捗管理の仕組みづくりが不十分

### システムの今後の展望

- ・ ユーザーの意見を反映させたシステム改修
- ・ ユーザー同士の交流がより盛んになる仕組み作り
- ・ 他の地域での展開